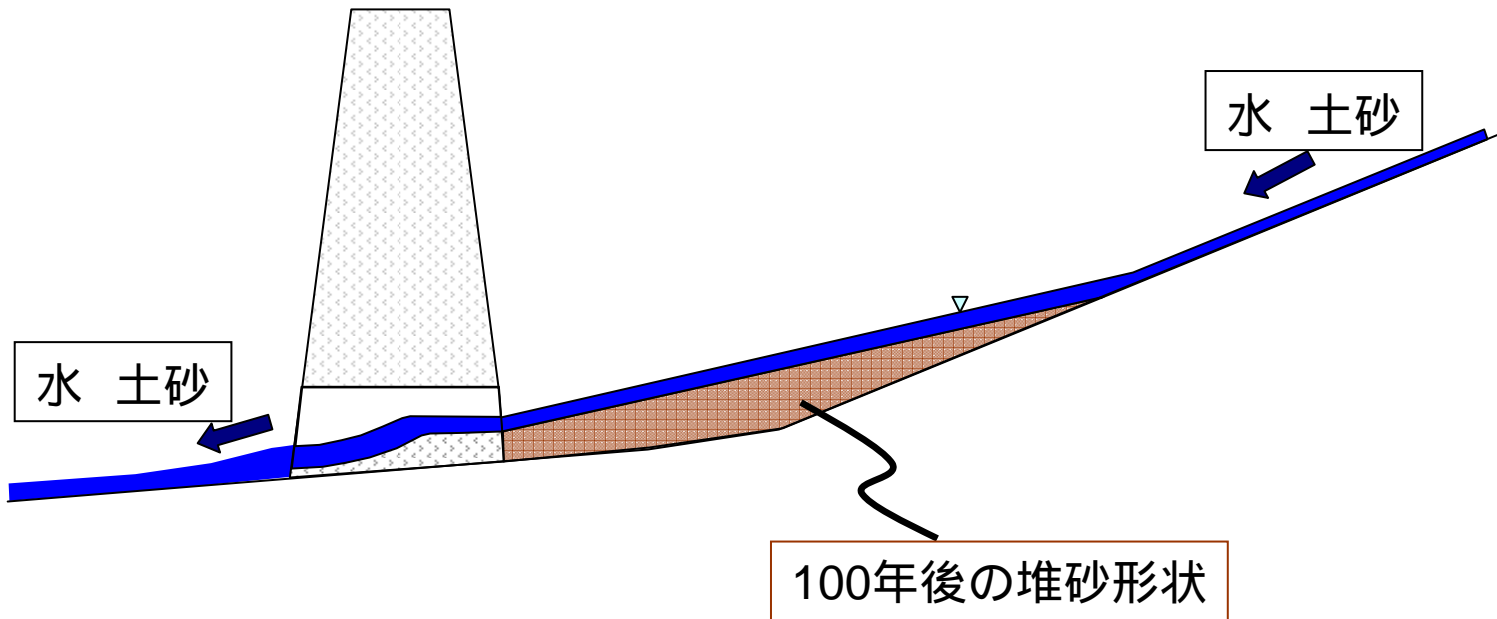


堆砂形状の検討について

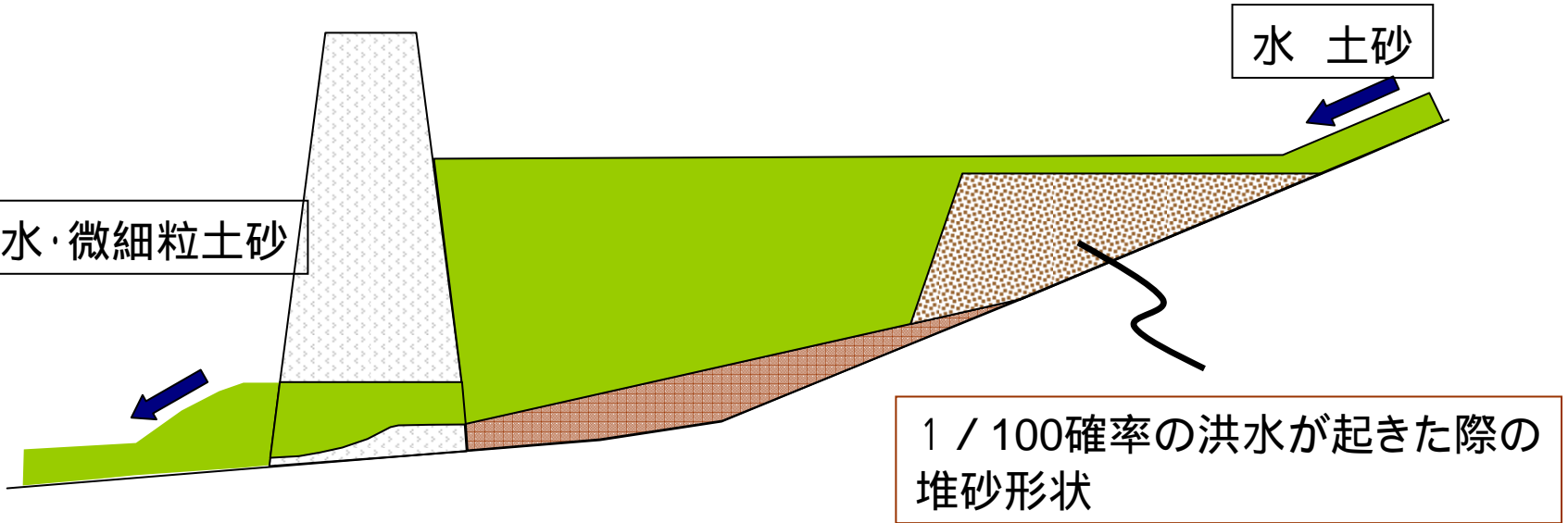
治水専用ダムの排砂について

洪水初期



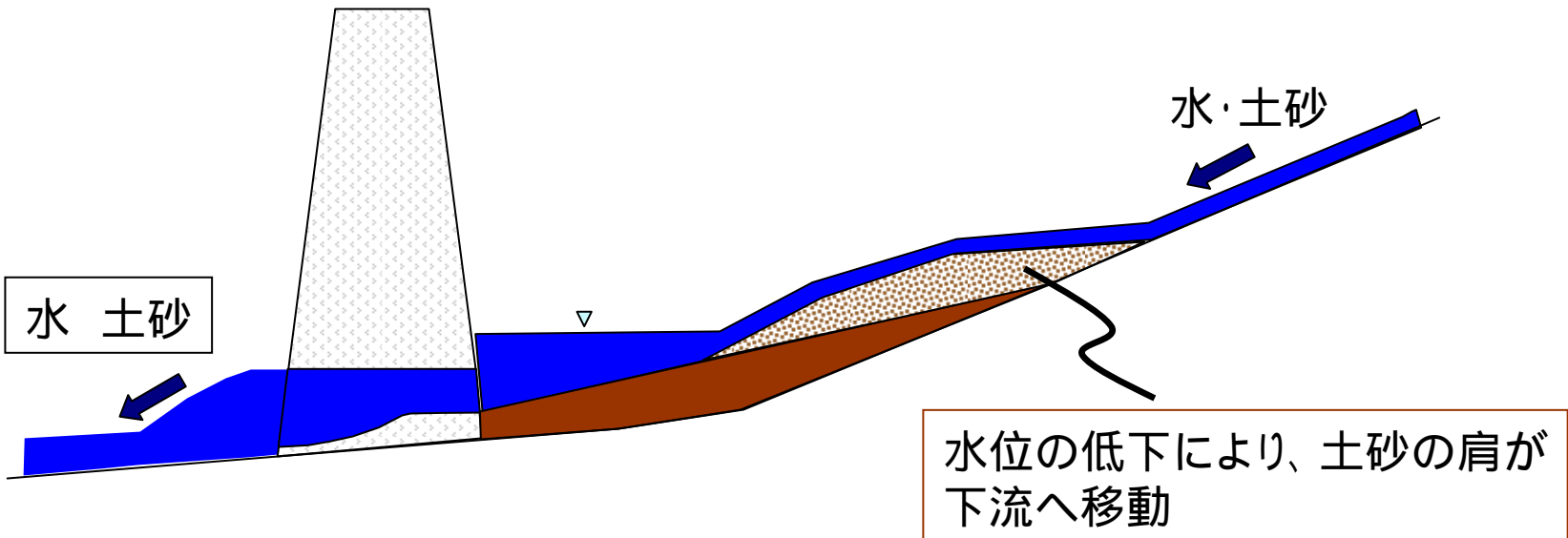
通常時は、貯水池に水は貯まらずに、水とともに土砂が下流へ流下します。

洪水時



洪水時は、貯水池に水は貯留され、土砂は堆積(上流側)します。
土砂は、洪水後の水位低下とともに下流へ流下していきます。

洪水末期



洪水後は、ダム貯水位が低下します。
このときに、土砂も下流へと流下していきます。

堆砂形状の検討フロー

堆砂形状の推定(河床変動計算)

における基本条件の設定

近傍ダム実績及び既往推
計式による堆砂量推計

計画堆砂量の設定

計画堆砂量と整合した100年間の流量
条件の設定

河床変動計算(100年分)

100年後の堆砂形状

河床変動計算(1/100確率洪水)

洪水時の貯水位ピーク時堆砂形状

100年後及び貯水位ピーク時H - Vに対する洪水調節計算

浅川ダムの堆砂容量 サーチャージ水位の決定

河床変動計算(100年分)

100年後の堆砂形状

100年間の流入土砂量 $550,000\text{m}^3$ が供給されることとする。

河床変動計算(1/100確率洪水)

洪水時の貯水位ピーク時堆砂形状

100年後に形成された堆砂形状の際に1/100確率の洪水が発生することとする。

浅川ダムの堆砂容量の決定

約 $32,000\text{m}^3$

数値は、今後の詳細な検討により、変わる可能性があります。

浅川ダム上流域の粒径調査状況



平成16年度 砂防事業に伴う業務委託より

浅川ダム上流域の現地踏査結果

中曽根ループ橋下流付近



砂や数十mmの中礫を主体としており、数十cmの大礫が散在している。
大礫については、移動した痕跡は確認できない。

浅川ダム上流域の現地踏査結果

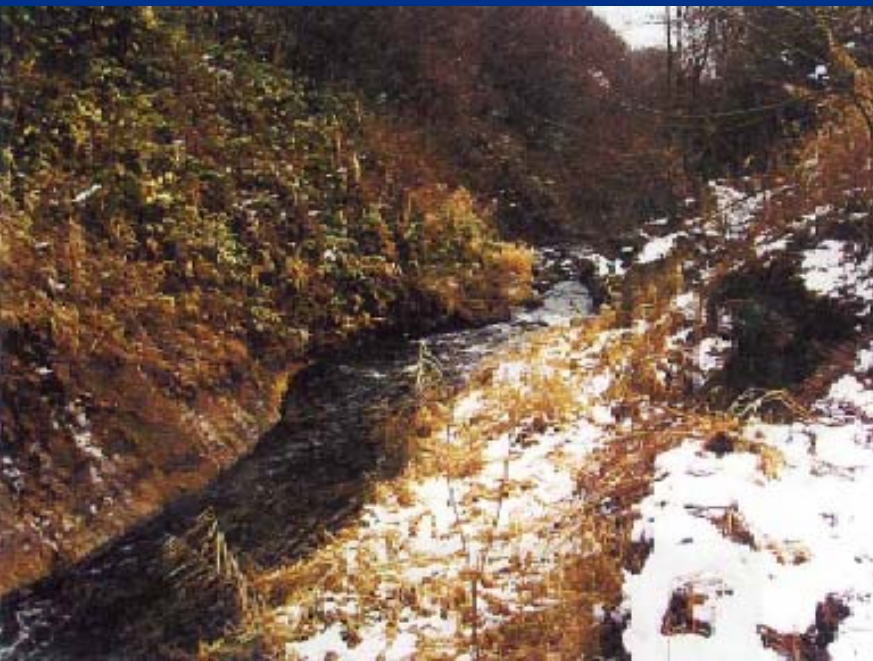
北郷水位観測所付近



砂や数十mmの中礫を主体としており、1mの巨礫も点在している。
巨礫については、移動した痕跡は確認できない。

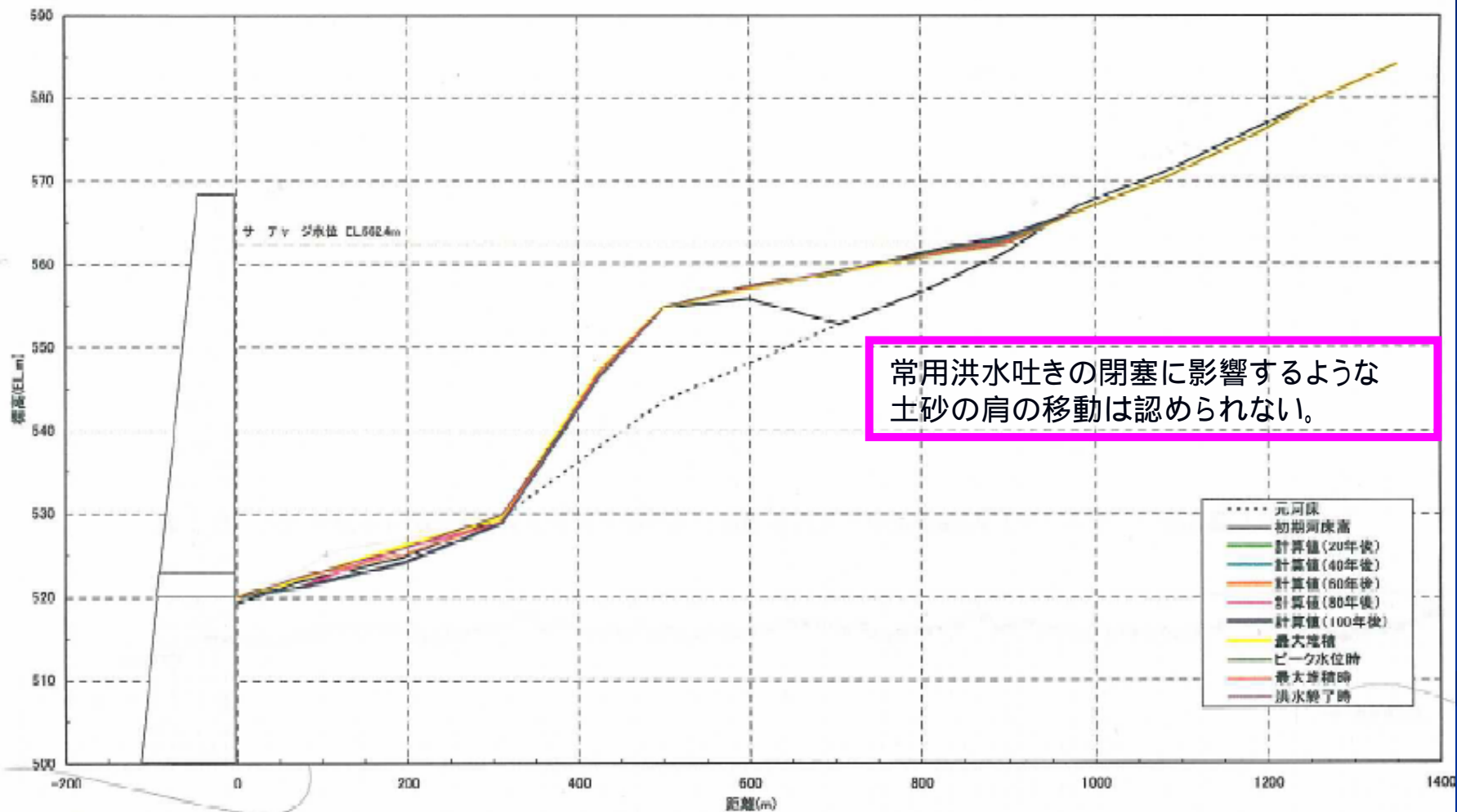
ダムサイトの現地踏査結果

ダムサイト付近



ほぼ砂もしくは数十mmの中礫のみで構成されている。
大礫・巨礫は、確認されない。

100年間 + 1/100計画洪水時の予測計算における河床高縦断図



今後、水理模型実験によって、常用洪水吐きの土砂放流能力を確認していく予定

土石流について

土石流が発生するおそれがある区間は、飯縄山山頂直下のみ

それより下流は、ほとんどが溪床勾配 3° から 10° の土石流・土砂流堆積区間



- 溪床勾配変化点($= 10^{\circ}$)
- 溪床勾配変化点($= 3^{\circ}$)
- 溪床勾配(15°) 発生区間、流下区間
- 溪床勾配(10° < 15°) 土石流流下堆積、土砂流堆積区間
- 溪床勾配(3° < 10°) 土石流・土砂流堆積区間
- 溪床勾配(0° < 3°) 土砂流堆積区間

浅川ダム上流域の溪床勾配調査結果